

平成30年 第1回伊賀市総合教育会議 議事録

1. 開会日時 : 平成30年6月29日(金曜日) 午前9時30分～
2. 開会場所 : 上野西小学校(3年教室及び多目的ホール)
3. 出席者 : 岡本市長、笹原教育長、谷本委員、中委員、長谷委員、内藤委員、
宮崎企画振興部長、谷口副教育長、中林次長、谷口教育総務課長、
清水生涯学習課長、林崎学校教育課長、笠井文化財課長、
中岡上野図書館長
岩寄西小学校長

4. 教育会議

☆ 市内小学校外国語活動(英語)視察(9:40～10:25) 上野西小学校(3年生)

協議・調整事項(10:30～11:50)

(1) 小学校英語活動について

・授業視察の感想

市長

授業参観に出席して、英語はもちろん、個性を生かすことが根底にあるという印象をもち、そういう意味では、これからこの地で育っていく子ども達、その人らしく持てる能力をしっかりと生かして行くということができていってくれたら良いという思いを新たにしました。

国際人となることをより一層目指すわけで、コミュニケーションの面からも、いろいろな地域の人たちの共通言語を獲得すると言う意味から良いと思うが、同時に「私たち伊賀に生まれ育った者としてのアイデンティティ」を喪失してはいけない、これまでに増して伊賀という所はどんなところなのかそれをしっかりと認識をしてもらって、それぞれにアイデンティティをしっかりと身に着け、それを発信して行く、自分の言葉として発信して行くということを忘れてもらっては困ると思います。

流暢に英語を話せても、自分が伝えたいことが何なのか、何のための英語を話すのかと言うことを忘れず、自分たちは何者なのか、自分をどう表現するのか、そうして、どう皆さんに納得していただけるような説明ができるのか。そんな能力を更に加えていただければ盤石かなというふうに思いました。

長谷委員

授業を見て、感動したと言うか、我々の時代とぜんぜん違うということで、本当に良かった。今後この子たちが中学生になったときには、学習の積み重ねがありレベルが高くなっていると思う。中学校英語との連携など、国や市の対応も気になるところです。

中 委員

子ども達のとても元気な姿、楽しい授業、先生のパワフルな授業を見せてもらって、圧倒させられた。やはり英語に馴染むという意味からも、耳で入ったものが、書くところまで行かずとも、うなずいてもらえたら次の学習につながると思います。

谷本委員

初めて手探りでやっているわけですが、例えば、海外からこの学校にも来ているネイティブの人たち、ポルトガル語とか、スペイン語、中国語とか、他の言語もあると思うが、そんな人たちの協力で、たとえ週に一回でもいいから、5分間だけでも、他言語で会話をやってみるとか、子ども達どうして自分たちの言語を数字なり、あるいは挨拶なり、そういったことができたなら、特徴ある伊賀の学校の仕組みができるのではないかと思います。

内藤委員

自分や、自分の子ども達が小学生の時に比べて、「英語は話すものなのだ。」という授業は素晴らしいと思った。子どもの頃には「英語は書くものだ。」という記憶が強いものだったが、今回の授業では、先生の言葉をリピートして伝え、英語は使うものだ、コミュニケーションツールなのだという事を分かって、それを表現したいということがすごく感動だった。

本来なら、1年生から6年生まで積み上げて中学校につなげるのだろうが、この過渡的な時期には、積み上げが不十分な状態で中学校に行くことになるので、今後の取組みへの疑問が少し残りました。

今の三年生の子ども達にとっては、もう少しスピードや濃度、質感を求めても大丈夫なのではないかという気がしたこと、ALTの先生の活用に工夫の余地があるかと思った。

また、可能であれば、ネイティブの先生から日本以外の国の事象も教えてもらえたら良いのではないかなという気がしました。

教育長

新学期に入ってから何回か英語の授業も見て、どの教室の子供達もみんな楽しそうにしているという感想です。

子どもには変に苦手意識を持たさないほうが良いと思っているので、今日は、元気良く参加できている姿を見て、すごく頼もしく良いと思いました。ALTの有効性というのが、実感と

してすごく理解できる授業でした。予算との関係もあるが、今後はALTの重要性を十分に認識した上で考えていかないといけないと思いました。

それと、学校、学級運営がちゃんとできているクラスなのだろうというのが認識できたので、安心しました。

遊びを多用しながら授業の中に入れていくというのは、難しいと思うが、子ども達が楽しんで参加し、みんなで授業をやっている様子がうかがわれ、初めての英語の授業であったが、みんなが馴染んでいる姿を十分に認識できたので良かったと思っています。

上野西小学校長

3年生の6月という時期で、ゲームも楽しみながら英語活動に触れていくという点を見ていただいた。

ALTの活用について、ALTの先生が来ない授業時間もあるので、本来であれば担任が授業をしていくべきだと思っています。しかし、そこで補助するのがALTの先生であり、今日は、出番は少なかったかも分からないが、5、6年生になるとネイティブな発言で指導され、しっかりと子どもがそれを復唱し、黒板にボードを貼るなど視覚も得ながら覚えていくということではすごく丁寧な指導をされています。本校に来られているALTの先生も表情豊かな方なので、それも含めて、子ども達に学びをさせていただいていると思っています。今日は3年生でしたが、5、6年生になると更に需要があるので、そういった形で力を発揮してもらっています。

副教育長

小学校の3年生から5年生までの英語授業がスタートしたところですが、6年生は去年から行っています。今後、3年生の子ども達が6年生まで積み上げ、中学生になるとオールイングリッシュで全て授業をすることになっていますし、大学入試もTOEICや英検の資格を考慮するという流れもあります。今後、中学校の先生も日本語ではなく英語で授業を進めて行くように変わってくると、時間数は変わらないが中身が変わってくることから、これからの英語が重要視される流れにあります。

中委員

教科書を見ると結構中身が良く、英検の5級、4級が受けられるような中身にもなっているので、小学校の間に言葉として感覚で捕らえていけるような授業にしてもらえたら、教科書が生かせると感じました。

中学校で英語ができたのに、高校でできなくなるという子が半分以上占めるのではないかと思います。生きた英語がしゃべれて、聞けて、書けて、読めると、高校になってから一気にするのは難しいので、身についた英語で受験に臨めるような子どもに育ててもらえたらうれしいと思います。

副教育長

3年生から英語授業がスタートしました、ご感想をいただいた方向で力を入れながら進めていければと思っています。

学校教育課長 (ALTの現況について林崎課長より説明)

企画振興部長

現実的に教員数の充実をしっかりと考えて行かないといけないというのが一点と、電子黒板を使うのは良いけれど今日の学級に対しては少し小さい感じがした。機材の充実というのも今後必要になってくると思いました。

(2) 平成30年度主要事業の推進について

(資料に基づき、各所属長より、平成29年度主要施策の進捗状況について説明)

<教育総務課>

① 学校施設整備事業

- ・阿山小北校舎大規模改造工を10月15日完成予定で実施。
- ・柘植小学校プール塗装工事完了。
- ・遊具、消防設備改修工事を夏休み中心に実施予定。
- ・上野西小学校屋内運動場補修工事の設計業務に着手し年度内に完了予定
- ・新居小学校建設事業について校舎棟建設工事を実施中10月末完成予定で、来年1月から供用開始の予定。30年度から31年度にかけ屋内運動場改修工事、南校舎解体工事、グラウンド整備工事を実施。
- ・小学校給食センター整備事業については本設計に向け最終打合せを実施中。

② 学校区再編事業

- ・現在、長田・新居小学校統合事業に取り組んでいる。校名、校歌、校章の選定等について協議中。長田地区児童の通学方法についても通学方法の基本ルールの中で決定していく方向で協議していく。
- ・上野南地区小学校校区再編事業については、今年度結論を出すべく神戸地区を中心に引き続き協議を進める。

③ 廃校施設の利活用・処分にかかる検討

- ・成和中学校の貸付は決まったものの、他の施設は進んでいない状況にある。

④ 通学のあり方（スクールバス）検討

- ・公共交通機関への乗せ替えを第一に考えており、遠距離通学者の距離の厳正化、補助の見直しを進めている。保護者への説明会を実施し取り組んで行く。
新潟市での事件をはじめとするいろいろな事件等も発生する中、地域の連携、関係者の連携により全体的に取り組んで行く必要があると考えている。

<学校教育課>

① 地域とともに学校マニフェスト推進事業

- ・学力、人権、キャリアを基に本年度も各学校で進めて行く。

② 生徒指導推進事業

- ・包括的生徒指導（モデル校推進事業）として緑ヶ丘中学校においてハイパーQ-Uを入れた児童生徒の多面的な捉え、スクールソーシャルワーカー等専門化との連携による企画をし、推進している。

③ 特別支援教育充実事業

- ・ここ5年間で特別支援学級児童生徒数が2倍に増えており増加の傾向にあることから、次年度以降に向けて生活支援員の配分等を検討して行く。

④ 英語教育充実事業

- ・今年度から実施しており、見学いただいたとおりの状況にある。ALTの活用、英語検定について課題と考えている。

⑤ 郷土教育推進事業

- ・昨年度資料作成が完了している。最終調整を行っており年度内の完成を目指している。

<生涯学習課>

① 栄楽館の利活用

- ・他の公共施設の充実により、入館者数は減少している。公共施設最適化計画に基づき、生涯学習施設からまちなかの賑わいが創出できる施設への転用を考えている。公益財団法人伊賀市文化都市協会の指定管理が平成31年3月末で終了することから、関係部署と協議を行い今後の活用の方向性について検討を行っている。

② 地区公民館事業の見直し

- ・市内各地域の公民館活動について不均衡が生じていることから、社会教育事業の相談

や調整ができるコーディネーターの人材育成や生涯学習の推進が行えるよう昨年度から生涯学習リーダー養成講座を開催している。

地域で主体的な取り組みができるよう取り組んでいきたいと考えている。

③ 人権同和教育推進事業

- ・人権尊重の意識を高め一人ひとりが人権に関する基本的な知識や考え方を習得できるようあらゆる機会をとらえ、積極的な啓発活動に今後も取り組んでいきたいと考えている。また、今年度10月13日から14日に当市を拠点に開催される第52回三重県人権同和教育研究大会を有意義な大会とするため、各機関連携して協力するとともに、地元伊賀市で差別をなくすために活動している高校生や青年の実践を地元報告としてまとめ、思いを伝える中で、すべての子どもたちの自己実現を果たせる人権同和教育の確立を目指している。
- ・そのほか、伊賀市、甲賀市、亀山市で連携している連携プロジェクトの生涯学習部会の取り組みや、定住自立圏の笠置町、南山城村との自立連携事業として今年度9月2日にハイトピア伊賀において「かんこ踊り」の講演会等の開催を計画している。
- ・支所周辺施設複合化計画により話が進んでいる青山公民館といがまち公民館について、関係各課と調整しながら詳細の検討協議を行っていききたいと考えている。

<文化財課>

① 伊賀市歴史的風致維持向上計画

- ・平成28年5月に計画認定を受けている。

地域の意見を聞き、庁内の関係部局と協議を行いながら事業の進捗を図りたいと考えている。

② 文化財保護修理事業

- ・国県の保護事業を実施している。
- ・県指定の川東春日神社解体修理事業については、平成28年度から設計管理に取り組み、昨年度には解体を行い現在は、解体後の部材で使用できる物の精査を行っており、平成30年度では基礎工事等を予定しており、平成35年3月完成予定。
- ・国指定重要文化財の猪田神社については、屋根の吹き替え修理に着手。屋根の修理完了後には防災設備の整備を予定している。
- ・上野天神祭のダンジリ行事にかかる用具の修復について継続的に進めており、昨年度から今年度にかけて鍛冶町の楼車の解体修理を進めており祭りまでに組み終える予定となっており、その後は東町のダンジリの車輪の修繕を予定しており、東町の次には福井町の見送り幕の修理を数年かけて行う予定をしている。

③ 坂之下の伊賀国庁後の整備事業

- ・坂之下の伊賀国庁後の整備については、基本設計の作成を予定している。
埋蔵文化財の保護については、太陽光パネルの設置にかかり事業主からの照会があり、対応に追われている。
- ・天然記念物のオオサンショウウオについては、住民の方等からの通報で計測、チップの埋め込み等の対応を行う等保護に努めている。

<上野図書館>

① 新図書館の整備

- ・図書館機能の充実をしていきたい。
- ・上野図書館が市民の知の拠点、交流の拠点、つながり、居場所づくりの拠点としての機能が求められている中であって、老朽化に加え駐車場の確保、施設の狭隘化等の様々な課題があり、南庁舎の利活用の中で早期に進められるよう関係機関との協議連携により取り組みたい。

② 図書館の運営・管理

- ・学校図書支援や、幼児から高齢者までの幅広い学習ニーズやビジネス支援という観点・において、市民が利用しやすい図書館となるよう各種事業に取り組み情報発信を行い、公民館図書館とともに啓発していく。

直営図書館の取り組みとして、司書及び学芸員の資格を有する図書館司書の確保を行い、蔵書や郷土資料等を効率的、効果的な情報提供ができるようにしていきたいと考えている。合わせてICT化も進め、効率的な図書館運営を目指す。

副教育長

さまざまな事業を、また、課題もありながら進めているというところです。

懇談の中で、こういうところはというところがあればお出しいただきながら進めていきたいと思えます。

市長

校区再編事業について、南部はどうか今後推移を見て行きたいと思うが、柘植、霊峰は、地元の方も早期にと伺っている。これについては、優先課題になってくると思っています。

特別支援教育の充実については、最近、「近代の福祉」を見た。外国籍の子どもたちの特別支援学級の子どものレートの割合が大変高いということです、これは、日本語力の不足が関係してい

と思うが、当市ではどうなっているのか報告を頂きたいと思っています。

郷土教育推進事業では、自分たちのアイデンティティをしっかりと確立させてこそ英語教育も成り立つだろうと思う。伊賀学検定を学校でやっているところもあるようだが、全般にカリキュラムの中に入れていくことが必要となってきたらと思っています。

栄楽館については、教育委員会での対応は無理だと思っており、早期に管理管轄等を含めて、改善していくことは必要だろうと思っています。

人権同和、人権教育について、当市は同一性パートナーシップ宣誓制度を全国3番目に行っています。学校教育の中においても、その子ども達が誇りを失うことなく一人ひとりの人間としての心得を失うことなく、周りからも特別な目で見られることもなく、仲間として頑張ってくれるような教育をしていただきたいと思っています。

伊賀市の教育にはLGBT施策というのがないので、他市に比べると取り組みが少ないと思っているのでよろしくお願ひしたい。

定住自立圏の取組については良い事だと思います。

子ども達の教育においても、お互いに小さいときから一体感を醸成できるような交流を続けることが必要だと思う。子ども達が共にできるスポーツ事業など、交流、学習事業が行われると良いと思います。

文化財では、歴史的風致維持向上計画の担当が抜けている部分があるので、追加しておきたい。

図書館は、大変不備な図書館になってしまった。新たにバージョンアップする図書館計画があるので、それをしっかりとプロモートして行くような体制を行政側だけではなく、利用者や子ども達も含めて、素晴らしい交流型図書館の建設に向けて声を上げていただくことが今こそ必要だと思っています。

副教育長

いがまちの柘植中、霊峰中との統合の話も進めて行くということによろしいですか。

市長

地元の方からは、早くして欲しいという話です。

谷本委員

統合について、長田と新居小学校も近々に統合するわけですが、校名を決めるときに地名を足して2のような事務的な名前では結果不平等になってしまう。長田と新居と足したような名前はぜひつけないようにしてもらいたい。

事務的な名前はやめて、地元の方の意見を聞いて対応してもらいたい。

スクールバスの件について、1週間ほど前に事故があったが、件数はどれくらいですか。

教育総務課長

昨年度は、道路上での事故というのは、見受けられなかったが、例えば子どもの送迎時に、校内の物品に接触したということは少しありました。大きな事故というのは起こっていません。

谷本委員

事故を起こした者に対して、教育委員会から何か指導を行っていますか。

教育総務課長

必ず、そういうことが起これば、その経緯であったり、原因であったりというようなものについて検証させると共に、今後の対応についても、事業者としての対応を提出してもらっています。

今回の事故については、授業が30分程度遅れたということで、報告したのもので、事故が起こったから、その業者をすぐにやめさせるとか、そういうことにはならないと思っています。

谷本委員

それは、年間契約として入札でスクールバスを決めているから、動かすことはできないということですか。

教育総務課長

重大な事故が起これば、確認の上で処分の対象になると思うが、これまでの件についてはそういった重大事故になっていないということです。

副教育長

今回の事故は、軽微なものだったが関心が強く、授業が30分遅れたということで、記者発表したということです。

バス会社に対しては、報告書をあげ、注意をしたということです。

市長

小学校の名称、名前については、地名を冠するというのではなく普遍的な形だと思います。

内藤委員

青山青少年育成会議の福祉教育講演で、共生、協働していくことの大事さをうかがいました。

その中の事例で、下校時に見守り対象の高齢者のお宅に児童民生委員さんと児童が訪問することが紹介されました。教員ではなく地域の民生児童委員さんと訪問し、玄関先で少し交流することで、訪問した子と、しなかった子では最終的に郷土に住み続けたいと思うという気持ちに差が生まれるという話の中に、ヒントが隠されていると思いました。

震災や犯罪が発生する中で、学校が安全、安心な場所として、体育館を中心にそれ以外の施設も含め不備が無いようにお願いしたい。ハード面は調査で分かってきているが、ソフト面での子どもたちの認識が大事だと思う。危機管理マニュアルを作成し、学校が避難訓練をしているが、想定外のことが起こってきているので、自分たちの想像性を働かせて、その時々で自分たちの命を守れるようにアレンジしたより深い教を行なわなくてはいけない時が来たと思います。

先ほどのヒントの話に戻るが、教師が多忙な中で、子ども達が、個性豊かに、命を守り、学習を高め、郷土を愛することにつながるような活動などいろいろなことをしていくためには、地域の人たちに、共助の相手として、子ども達が頼っていくような関係性を市として作っていきけるような社会教育も含めそういう関係性を推進してもらいたいと思います。

もう一つは、自分達が助けられる、自分達は守られるのでは無く、自分達も何かできることがあると子ども達が実感することで、自分が必要とされている認識を持ち、郷土で生きていこう、伊賀市で何か必要としてもらえることをやっっていこうというような郷土教育の一環にもなるのではないかと考えています。

まずは環境整備、愛すべき伊賀市の教育環境整備を充実させたいと思うところです。

中 委員

今、伊賀市では人口が減少しているような状態がうかがえるが、伊賀で住みたい、子どもを育てたいと思うときにはその拠点となるシンボルがほしいと思います。

伊賀市庁舎が新しくなることもあるが、やはり図書館が、大きな役割を果たすと思う。図書館に市民が集まり、拠点となり、広がっていきけるような、行ってみたいと思う図書館を作っていたきたい。

市長

子ども達の居場所ということ。学習や交流やと言うのが無い。それは、全世代をとおして大変重要な課題なのだと私は認識をしている。是非、共有していただきたい。

内藤さんが言われた件について、教育というのは授けるもの、授けられるものという感じですが、そうではなくそれと同時に、地域に育てられてきている、地域に根付いているということをしつかりと認識していく。授業としてやっていくのは難しいでしょうが、自分たちは地域の一員である、自分たちは地域に育てられている、私たちは、地域に主体的に関わっていかねばいけないという意識を行動で学習していくということが大事だと思う。

日本的にだめなのは、ボランティア精神の醸成が無いのではないのかなと、大人になってから、「頑張なあかんねやなあ」、「地震揺ったら行こう」という訳ですが、小さいときからそういう事をしていく、地域に何をしてもらえるか、地域に何ができるか、という事を考えていくことが大事かと思っています。

中 委員

大学が伊賀市及び近隣には無いので、どうしても大学受験となると伊賀市を出て行かなければならないので、18から24歳ぐらいの年齢の方が、抜けてしまっている状態だと思う。

そんな子ども達が伊賀市に帰ってきて「ここで働きたい」、「ここで住みたい」、「ここで子どもを育てよう」、「家庭を持とう」というような環境になれるように、これから、今日からでも始めていただきたいと思っています。

企画振興部長

今おっしゃられた事のために「まち、ひと、しごと総合戦略」ということを進めている。

それで、シティプロモーションというものを行っており、市の外へ踏み込む。それは何を調整するかというと市民のシビックプライド、要するに伊賀市民の誇り、そのベースになっているのは郷土教育であり、小さい頃から郷土、地域とのつながり、そういったものが醸成されていたら市民としての誇りというものを持って、外へ行っても誇りを持っていただけるというような事です。

例えば、高等学校と連携して、「上高未来学」というのをやっています。これは、上野高校の1年生や2年生に地域づくりを、「未来の伊賀市はどんなにしたらよろしいか」という事をグループで協議をし、将来像を作っていただいております、昨年も、発表していただいた最終優秀賞の計画を実現化しました。

自分たちが作ったものがすぐ、現実されることで、「ああ、自分らが考えた事が、将来地域づくりが、すぐに実現していく。」と言う芽を見せるということが、すごい力になると考えられ、そういった取組みも進めています。

持続可能な地域づくりというようなことでは、全市を挙げて、産業振興部も、企画振興部も健康福祉部も全部を挙げて持続可能な地域づくりに取り組んでおり、教育の部分でも郷土の教育をしっかりしていただいて、自助、共助、地域とつながって伊賀を誇りに思っただけのような子どもの育成をぜひ、よろしくお願ひしたい。

市長

今日は、英語教育を見せていただいた。今までに無い個性を発揮されていくように思います。

いくら誇りを持って、ここで一生を過ごすということはそれぞれが目指す目標が達成されないということが充分ありうる話しです。それはそれでいいとは思いますが、本当は逆に、この街は、この地域はどれだけ素晴らしいのか、どんなものが誇らしいものなのか、自然なのか、文化なのか、歴史なのか、そんなことがいろいろあります。それこそシティプロモーションなんですけれども、それをしっかり充実させる、小中高までの教育がしっかりしているとか、あるいは医療がしっかりしている、子育てがしやすいとかそういうことがしっかりと担保できれば、今度は、行く人あれば来る人ありますから、いろんなことをここで自己実現したいという人がやって来てくれるような街にしていく。そして、来てくれて生まれてきた子ども達がまた、この地域の人間として育っていくという、そんな良い循環ができればいいと思っています。

そのためにもシティプライドをしっかりと醸成をして行かないといけないし、今日の英語教育の個性を活かせるように、羽ばたけるようなそんな教育にさせていただけたらと思います。

教育長

ここで今、お話をいただいたことというのは、すごく大切なことです。

教育の根本に関わって、伊賀のこれから子ども達が希望を描いた姿、そこに到達できるための支援、環境づくりも含め、いろいろと重要なことの話をしていただきました。

英語授業を受けている子どもたちの活発な姿を見て想起していただけたかと思っているので、個々の授業の充実を子どもたちの将来につなげて行って、未来ある伊賀市を創って行きたいと改めて思いました。皆様のご協力これからもよろしくお願いします。

副教育長

まだ、ご意見もあるかと思いますが、時間も来ましたのでこれで第1回目を終わらせていただきたいと思います。

本当に今日はありがとうございました。